

平成 30 年度 事業報告書

I 法人運営の状況

1 理事会の開催

(1) 平成 30 年度第 1 回理事会

開催日 平成 30 年 5 月 24 日

開催場所 別府発達医療センター 会議室

審議事項
・平成 29 年度事業報告について
・平成 29 年度決算について

(監事の監査報告)

・役員候補者の推薦（案）について

(2) 平成 30 年度第 2 回理事会

開催日 平成 30 年 7 月 26 日

開催場所 別府発達医療センター 会議室

審議事項
・地域支援センターほっと棟建て替えに係る方針等の検討
について

(3) 平成 30 年度第 3 回理事会

開催日 平成 30 年 10 月 25 日

開催場所 別府発達医療センター 会議室

審議事項
・諸規程の一部改正（案）について
・大分療育センター大規模修繕工事に係る業者選定について
・大分療育センター大規模修繕工事に係る業者との工事請負契約
締結の理事長への委任について

(4) 平成 30 年度第 4 回理事会

開催日 平成 31 年 1 月 24 日

開催場所 別府発達医療センター 会議室

審議事項
・地域支援センターほっと改築の方針について
・諸規程の一部改正（案）について

(5) 平成 30 年度第 5 回理事会

開催日 平成 31 年 1 月 31 日～平成 31 年 2 月 7 日

開催場所 決議の省略

審議事項
・大分療育センター所長の任免について

(6) 平成 30 年度第 6 回理事会

開催日 平成 31 年 2 月 7 日

開催場所 別府発達医療センター 会議室

審議事項
・理事長の選定について

(7) 平成 30 年度第 7 回理事会

開催日 平成 31 年 3 月 28 日

開催場所 別府発達医療センター 会議室

審議事項
・平成 30 年度第 1 回補正予算（案）について
・平成 31 年度事業計画（案）について
・平成 31 年度当初予算（案）について
・諸規程の一部改正（案）について
・第 3 期中期計画（案）について
・業務執行理事の業務範囲（案）について

(8) 平成 30 年度第 8 回理事会

開催日 平成 31 年 3 月 30 日～平成 31 年 3 月 31 日

開催場所 決議の省略

審議事項
・基幹相談支援センター事業等の業務委託契約の締結について

2 評議員会の開催

(1) 平成 30 年度定時評議員会

開催日 平成 30 年 6 月 14 日

開催場所 别府発達医療センター 会議室

審議事項
・平成 29 年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目
録の承認について
・役員の選任について

3 監事の監査

(1) 決算監査

年月日 平成 30 年 5 月 17 日

場所 别府発達医療センター 会議室

内容 平成 29 年度業務の執行状況及び財産の状況

(2) 中間監査

年月日 平成 30 年 11 月 13 日

場所 别府発達医療センター 会議室

内容 平成 30 年度上半期の業務の執行状況及び財産の状況

4 役員の選任等

(1) 施設長の交代に伴い、次の通り委嘱した。

氏名	委嘱年月日	備考
越智芳子	平成30年6月15日	新任理事 児童発達支援センターひばり園園長 (任期:平成31年度定時評議員会)

(2) 次の通り理事長を委嘱した。

氏名	委嘱年月日	備考
福永拙	平成31年2月8日	新任理事長 別府発達医療センター長 (任期:平成31年度定時評議員会)

5 運営協議会の開催

地域の代表者や利用者又は利用者の家族の代表者等が参加し、意見を聴く場として位置付け、地域や利用者の意見を法人運営に反映させることを目的に年2回開催した。

委員から、職員の確保及び育成、外来診察希望者の待機状況、身体拘束の縮小・廃止への取り組み、障がい児・者歯科診療の状況、ボランティア活動の活性化、各施設・事業の行事計画等、多岐にわたり貴重なご意見、ご要望をいただき、来年度の事業計画に反映させるとともに、今後の法人・施設運営にとって貴重な参考意見となった。

なお、人事異動に伴い、河野清門、田原邦昭両委員が退任し、後任として高橋誠二氏、三木克郎氏が新たに委員に就任した。

運営協議会 委員名簿（平成31年3月31日現在）

氏名	職業等
委員長 松宮 健太郎	別府市鶴見町自治会 会長
委員 立川 敬子	別府発達医療センターボランティアの会 代表
委員 高橋 誠二	大分県立別府支援学校鶴見校 副校長
委員 三木 克郎	大分銀行鶴見支店 支店長
委員 飯田 孝喜	利用者家族代表
委員 中島 なぎさ	利用者家族代表

(1) 第1回運営委員会

開催日 平成30年 7月13日（金）

審議事項 ①平成29年度事業報告
②平成30年度年間行事計画

(2) 第2回運営委員会

開催日 平成31年 1月11日（金）

審議事項 ①平成30年度各施設・事業の経営状況報告
②平成31年度事業計画（案）

③平成31年度年間行事予定（案）

④任期満了に伴う委員の選任について

II 法人事業の概要

今年度は、平成28年7月に神奈川県相模原市の障がい者施設で発生した痛ましい事件を踏まえ、これまで取り組んだハード面の対策に加えて、別府警察署に講師を依頼して防犯訓練を実施した。予測できない不審者に対して、職員一人ひとりが的確な対応するためにマニュアルの整備、マニュアルに基づいた防犯訓練の継続の重要性を改めて認識した。

4月には診療報酬と介護・障害福祉サービス報酬が同時改定され、診療報酬本体部分、介護報酬、障害福祉サービス費ともに増額改定された。さらに、別府整肢園の利用者数が月平均6.4名と増加し、また、めじろ園が平成30年2月から一般病床となつたこと等から安定的に経営が推移した1年であった。

今後予定される地域支援センターの建替えについては、用地や改築プラン等について様々な検討を行った。

同時に検討を進めた法人の中期計画においては、別府整肢園の利用増にともなう入退園支援の重要性、18歳を超えた入所者の増加など、新たな対応が必要な課題を明らかにするとともに、めじろ園における住環境の改善や短期入所者の受け入れのためには、改築が必要であることを確認し、これらを中期計画に反映した。

また、優れた人材を確保するために、次年度に向けて福祉職のキャリアパスの策定を始めるとともに、職場環境の整備の一環として「カイゼン運動」やIT化検討部会を開催した。同時に、介護機器の導入に向けた試行を開始した。

以下、その実績を報告するとともに、各施設の事業についても概要を取りまとめて報告する。

1 職員の人権意識の醸成と緊急時への備え

- (1) ハイパーネットワーク社会研究所副所長の渡辺氏を講師に迎え、別府センター職員を対象として「SNS利用にあたっての個人情報保護」と題して研修を実施し、情報化社会における人権に対する理解を深めた。参加職員は97名であった。なお、大分センターでは次年度開催する。
- (2) 職員倫理綱領の理解を徹底し、利用者第一の視点を根付かせた。
- (3) 別府警察署から講師を迎えて不審者対応のための防犯訓練を実施し、迅速な通報と施設外への退去や足止めを最優先した対応等、有益な指導を受けた。職員の参加は30名であった。

2 利用者に対するサービスの向上

- (1) ファニーフェイスの山村氏を講師に迎えて、これまで同氏の接遇マナー研修未受講者を対象の同テーマでの研修を大分、別府の両センターで開催した。職員の参加は128名であった。
- (2) 発達障がい児を早期から支援するネットワークを構築するため、大分県と連携し新たな相談窓口を開設して、専任職員が関係機関との連携強化に取り組んだ。
- (3) 大分療育センターに新たに児童精神科の常勤医を迎える、診療体制の充実を図ることで、増加する利用者へ対応した。
- (4) 常勤内科医を4月に1名、さらに6月に1名の確保できる見込みとなり、入所者への医療体制を強化することにつながった。

3 外部環境の変化に対応した法人運営の推進

- (1) 平成31年度から5年間の中期計画を策定し理事会で承認を得た。同時に、平成31年度から10年間の中期資金計画を策定して、資金ショート等が発生しない見込みであることを明らかにした。
- (2) 平成30年4月の各種報酬等改定内容を職員間で共有するとともに、特に入所部門において利用者増に取り組み、安定した収入の確保に努めた。
- (3) 各施設の事業内容と経営数値の両者を踏まえた適切な事業運営に努めた。

4 各部門における働き方改革の推進

- (1) カイゼン提案運動を実施した結果、22件の提案がなされ、働きやすい職場の実現と作業時間の軽減や経費の節減につなげた。
- (2) 部会を立ち上げて業務のIT化等の検討を進め、情報共有のための機器の導入を提案するとともに、電子カルテの導入についても、さらなる検討の必要性を提言した。

5 魅力ある職場づくりの推進

- (1) 福祉職においても、人事異動を踏まえ、異動した場所で職員がやりがいを持って働くことができるよう、それぞれの部署の特性を活かしたキャリアパスの作成について迅速な取り組みが必要とのコンセンサスを形成した。
- (2) 施設内保育所つばめ保育園を立ち上げ、職員の利用拡大に努めた結果、定員10名中8名の利用が得られ、順調な初年度となった。

6 学会等担当施設としての取り組み

平成30年度は第45回日本脳性麻痺研究会（30年7月1日：福岡市）と第3

8回全民連医療事務研修会（30年8月16日、17日：大分市）を担当施設として運営し、前者は95名、後者は64名の参加者を得て成功裏に終えることができた。

III サービスの質の向上

1 サービス向上委員会

(1) 利用者満足度調査

調査期間	平成30年10月1日～10月31日	1か月間
調査方法	アンケート方式（調査用紙の配布・郵送）	
配布枚数	別府センター 609枚	大分センター 329枚
回収枚数	別府センター 462枚（回収率 75.9%）	
	大分センター 285枚（回収率 86.6%）	

今年度は別府・大分両センターにおいて利用者満足度調査を実施した。設問事項については、全項目について見直しを行い、「スタッフの対応や印象」に関する項目の「笑顔」、「親切さ」、「挨拶・声かけ」、「言葉遣い」、「服装」、「電話応対」の6項目はそのまま残し、同じ内容の設問であってもよりわかりやすい表記に変更したり、同じような内容の設問を一つにまとめるなどし、項目数を減らすなどし、回答がし易いよう改めた。

また、別府・大分両センターで同種の部署・部門については、比較分析が容易となるよう設問事項を統一した。外来のアンケートについては、前回と同様に外来診察のみの利用者と診察と合わせてリハを受診する利用者とを区別できるようにした。

アンケートの実施方法については、前回と同様に、来所時にアンケート用紙を配布し、回収箱等を設置して回収するほか、入園施設の利用者・保護者については一部郵送するなどした。全体的な回収率に大きな変化は見られなかったが、部署によっては前回よりも回収率が大きく向上した部署と低下した部署があり、回収率に大きな開きが見られた。

（別府発達医療センター）

全部門を平均した利用者満足度は、5段階評価のうち、5の「大変良い（満足）」は57.6%と前回よりも2.3ポイント減少し、4の「良い（ほぼ満足）」は25.5%と前回よりも1.5ポイント増加した。これらを合わせた評価（以下「良い評価」という。）の合計は83.1%となり、前回よりも0.8ポイントと僅かに減少した。

また、3の「普通」は11.6%と前回と同率で、2の「やや悪い（不満）」と1の「たいへん悪い（大いに不満）」を合わせた評価（以下「悪い評価」という。）は1.8%と前回より0.3ポイント増加した。また、無回答は3.5%と前回よりも0.4ポイント増加した。

全体的には、5の「大変良い（満足）」と4の「良い（ほぼ満足）」と合わせた良い評価の割合は、前回に引き続き80%台を維持しているが、「悪い」と「無回答」は僅かに増加している。このような結果から、引き続き全体的な利用者満足度の維持、向上に努める必要があると考える。

(大分療育センター)

全体の調査結果は、5の「大変良い（満足）」は66.9%と、前回より5.1ポイント増加し、4の「良い（ほぼ満足）」は20.0%と、前回より7.5ポイント減少した。これらを合わせた評価（以下「良い評価」とする）の合計は86.9%となり、前回より2.4ポイント減少した。3の「普通」は9.7%と前回より1.3ポイント増加した。

また、2の「やや悪い（不満）」は1.1%と、前回より0.2ポイント減少し、1の「非常に悪い（大いに不満）」は0.2%と、前回より0.1ポイント増加した。これらを合わせた評価（以下「悪い評価」とする）の合計は1.3%となり、前回より0.1ポイント減少した。なお、無回答は2.0%と前回より1.1ポイント増加した。

全体的には、前回より5の「大変良い（満足）」の割合が伸びているが、4の「良い（ほぼ満足）」は減少し、5と4を合わせた「良い評価」も減少している。一方で、「悪い評価」はほとんど変化が見られなかったが、引き続き全体的な利用者満足度の向上に努める必要があると考える。

(まとめ)

今回のアンケート調査でも、多くの利用者・保護者の方のご協力をいただき、たくさんの貴重なご意見・ご要望をいただくことができ、サービスの改善を図る上で重要なヒントを得ることができた。

それぞれの部署で、今回のアンケート結果と寄せられたご意見の一つひとつを真摯に受け止め、これから業務改善やサービスの質の向上に取り組んでいかなければならないと考える。

とりわけ、サービス向上委員会では、平成29・30年度と2年間継続して「笑顔で挨拶」を重点目標に掲げ、各部署で様々な取り組みを実施したにもかかわらず、今回、別府・大分センターとともに、接遇項目の「笑顔」と「挨拶・声かけ」における「良い」の評価が前回調査時よりも低下した。平成30年度には、全職員を対象

に外部講師による接遇研修を開催するなど研修にも力を入れているが、引き続き職員一人ひとりの意識づけの下、倫理綱領・行動規範に沿った利用者の適正な処遇、接遇マナーの向上に取り組む必要を感じた。

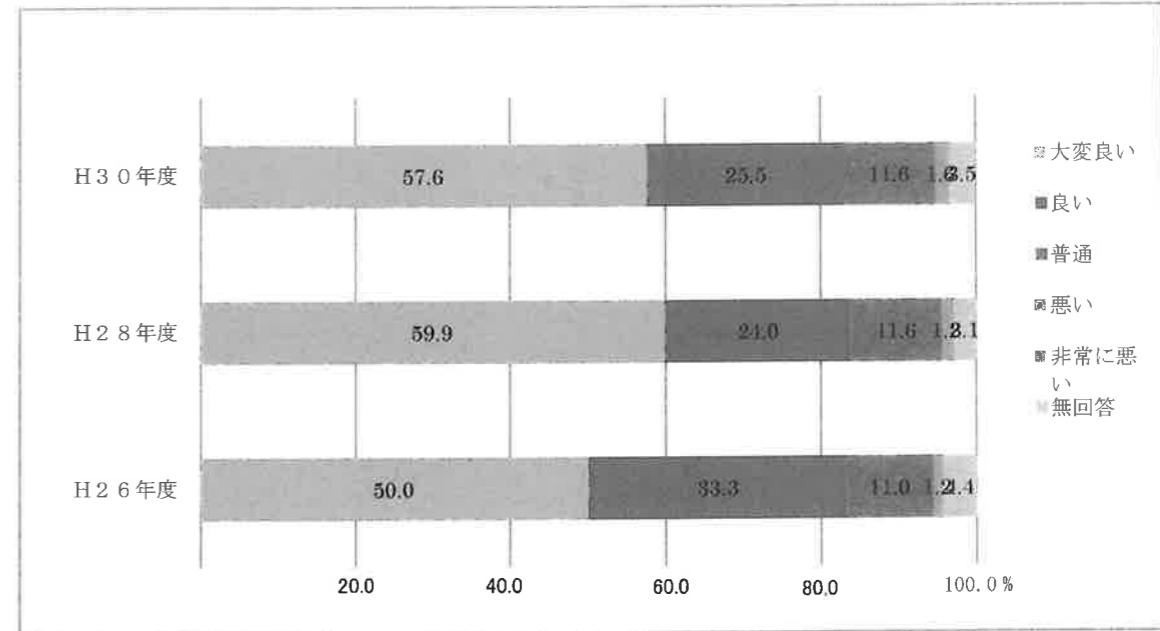
また、外来待合室やキッズスペース等の設備面や環境整備等についても、可能な限り要望に応え、改善に取り組みたいと考える。

一方で、今回もアンケートを通じて、多くの利用者・保護者の方から、職員への温かい励ましや感謝のお言葉をいただいた。これからも利用者・保護者の方々の期待に応えるためにも、より一層、安心・安全で心のこもったサービスの提供と質の向上に邁進していかなければならないと考える。

今回の利用者満足度調査の結果を踏まえ、部署毎で評価の低かった項目の改善に努め、利用者の満足度の更なる向上を目指すとともに、センター全体で検討すべき案件等については、サービス向上委員会を中心に課題や目標を定め、取り組んでいきたいと考える。

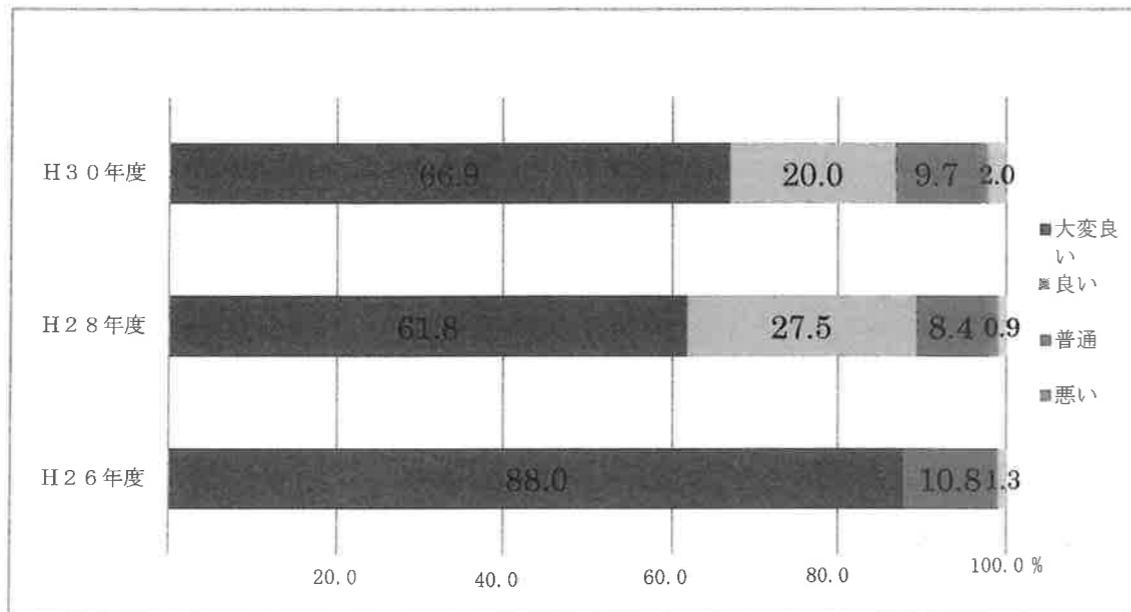
利用者満足度調査集計結果（過去3回分の推移）

(1) 別府センター



実施年度	回収率	大変良い	良い	普通	悪い	非常に悪い	無回答
H30年度	75.9	57.6	25.5	11.6	1.6	0.2	3.5
H28年度	76.8	59.9	24.0	11.6	1.2	0.3	3.1
H26年度	70.4	50.0	33.3	11.0	1.2	0.1	4.4

(2) 大分センター



実施年度	回収率	大変良い	良い	普通	悪い	非常に悪い	無回答
H30年度	86.6	66.9	20.0	9.7	1.1	0.2	2.0
H28年度	82.9	61.8	27.5	8.4	1.3	0.1	0.9
H26年度	95.9		88.0	10.8		0.2	1.3

2 苦情解決委員会

苦情解決委員会は、例年どおり年3回定期的に開催し、利用者から寄せられた苦情・要望等の内容及び改善策等の報告を行うとともに、委員から業務改善や再発防止のための有益な助言、提案等をいただいた。

今年度、ご意見箱等に寄せられた苦情・要望等の申出件数は、苦情が12件、要望が10件、その他のご意見が1件の計23件で、前年度（苦情16件、その他4件 計20件）と比べて件数はわずかに増加した。

苦情では職員の接遇・サービスに関するものが9件あり、「質問や問い合わせへの回答が遅い」「サービス利用に関する説明が不十分」「依頼した書類の作成が遅い、内容に誤りがあった」「入所利用に関する案内・説明が複数の職員からバラバラに行われている」「リハ前診察の時間がかかり過ぎる」「診察時間が遅れた上に、対応した職員の態度が悪い」「利用者の私物が破損している旨の報告がなかった」といったものや「ナースコールのスイッチが利用者の手の届かないところに置かれていた」「感染隔離中の利用者からのトイレ介助の申し出に適切に対応しなかった」といった利用者の安全管理や人権尊重においても問題となる事案もあった。

これらの苦情については、委員会での助言も参考にしつつ、当該部署での再発防

止策の検討や職員間の勉強会等を開催するとともに、会議等を通じて全部署に注意喚起を行った。また、外部講師を招き、全職員を対象に接遇研修を実施するなどし、法人全体での接遇サービスの向上に努める

また、要望の多くは設備・環境に関するもので、「オムツ交換時のお尻拭きを温かいものにしてほしい」「トイレ内に扇風機や手洗い用の踏み台を設置してほしい」といった要望については直ちに導入、改善することができたが、「身障者優先駐車場や整枝園入口前のスロープに雨除けの屋根を設置してほしい」や「一回り大きなサイズのベッドを導入してほしい」といった要望については、今後の検討課題となった。その他、「窓のサッシや網戸が砂埃で汚れているので清掃してもらい」とのご意見も寄せられたことから、日常の環境整備の向上にも努めた。

一方で、「職員の挨拶がとても気持ちが良い」といった感想もお寄せいただき、とても励みになった。

また、今年度も入所施設の面会日に合わせ、8月4日（土）にめじろ園で第三者委員による苦情・要望相談を開催し、保護者懇談会に第三者委員が参加するなどし、利用者と意見交換等を行った。

(1) 第1回苦情解決委員会

開催日 平成30年 7月 6日（金）
報告事項 苦情申出報告5件 要望申出報告2件

(2) 第2回苦情解決委員会

開催日 平成30年11月 2日（金）
報告事項 苦情申出報告6件 要望申出報告3件 その他報告1件

(3) 第3回苦情解決委員会

開催日 平成31年 2月 1日（金）
報告事項 苦情申出報告2件 要望申出報告3件

3 カイゼン提案運動

すべての職員が、各部門における日々の業務を見直し、福祉・医療現場としての特性を踏まえたカイゼン提案を実施することで、職員の法人運営に対する参加意識を深めるとともに、働き方改革を推進することを目的として新たにカイゼン提案運動を実施した。

サービス向上委員会において審査を行い、各部署から提案された22件（平成30年4月1日から平成30年12月31日までに実施した提案が対象）のうち、17件がカイゼン提案として認定された。

認定カイゼン提案の中から、下記のとおり最優秀賞1団体に、優秀賞2団体を決定し、報奨金を授与した。

(1) 最優秀賞 1団体

No. 別30-7 「人工鼻の変更」

提案者 めじろ園（代表者 甲斐陽一 氏）

決定理由 職員の業務負担軽減、利用者へのサービスの質の向上、コスト削減のいずれの面でも改善の効果があつたため

(2) 優秀賞 2団体

① No. 別30-8 「医師との連絡手段の効率化」他

提案者 整肢園・外来（代表者 粟田糸美 氏）

② No. 別30-2 「18時以降の留守番電話設定」他

提案者 ひばり園（代表者 越智芳子 氏）

決定理由 カイゼン提案運動実施初年度であることから、運動に意欲的に取り組み、多数のカイゼン提案を申請した上記2団体を優秀賞とするもの

4 安全管理対策強化期間の取り組み

過去の事件・事故を風化させないために、安全管理対策強化期間（6月9日から7月4日の期間）を継続し、利用者が安全に過ごせるよう職員全員でセンター全体の安全環境整備に取り組み、安全管理に対する意識を高めることを目的に今年度も全職員の参加を基本として、安全対策強化期間研修を実施した。 医療安全管理者としては、安全管理対策強化期間の研修内容の企画・実施を行った。

(1) 実施期間

平成30年6月9日（土）から7月4日（水）

(2) 実施内容

①「センター長の訓示及び医療安全に関する講話」

②「危険予知トレーニング」DVD研修

月日	時間	研修方法	研修内容	講師及び指導者	場所	参加人数
6月6日(水)	17:15~	訓示及び講話	センター長の訓示	福永センター長	ひばり園ホール	170名 100%
6月12日(火)	17:15~	DVD	センター長の訓示	福永センター長	会議室	
6月21日(木)	17:15~	DVD	センター長の訓示	福永センター長	会議室	
6月27日(水)	17:15~	DVD	危険予知トレーニング	研修用DVD	ひばり園ホール	168名 100%
7月6日(金)	17:15~	DVD	危険予知トレーニング	研修用DVD	会議室	
7月11日(水)	17:15~	DVD	危険予知トレーニング	研修用DVD	会議室	

③各部署の取り組みおよび報告

「安全管理対策強化期間」として、各部署の医療安全に関連した取り組みを実施し、期間終了後に取組んだ内容の結果をまとめて医療安全へ提出していた。提出された資料を取りまとめ、医療安全から各部署へ配布し、各部署の取り組みを共有した。

医療安全管理者が安全推進専門部会に出席し、提出されたインシデント報告書を委員会メンバ

ーと検証し、インシデント報告書の年間集計を行った。報告書の分類を11項目に分けて集計し、また各所属別のインシデント集計も行い、医療等安全管理委員会に報告した。インシデント報告書は年間524件で、事故報告書は年間5件だった。いずれも医療等安全管理委員会にて報告し、対応策を協議した。

IV 主たる事業の概要

「総務課」は、ほつとの改築等に関わる事前検討を踏まえて、中長期の施設整備計画・資金計画を見直した。また、今後の課題として、めじろ園の改築に関わる検討を開始する必要性について確認した。

別府警察署生活安全課の協力を得てDVD研修と防犯訓練を実施し、30名の参加があった。警察署員の助言を受け、早急な防犯対策マニュアルの整備と継続的な防犯訓練の必要性について確認した。

臨時の検討会議を開いて、採用が困難となってきた保育士等の職員の働きがいや人材確保に繋げるために、人事異動方針とキャリアパスを連動させ、キャリア形成に関する道筋を明らかにする取り組みが必要であることを確認した。防犯対策マニュアル、キャリアパスについては、次年度の課題とする。

成人期の重度入所者の成人病等のケアの充実に向けて常勤内科医の雇用に努め、2名が採用できる見込みとなった。

各部署に協力して、業務のIT化等の検討を行い、情報共有のための携帯端末等の導入の必要性、電子カルテの導入についてのさらなる検討を行うこと等を報告として取りまとめた。

第45回日本脳性麻痺研究会が九州大学西新プラザで、第38回全民連医療事務研修会がレンプラントホテル大分で開催されたが、その運営に中心的に取り組んだ。

また、昨年度からの継続課題であった大規模災害に関わる事業継続計画を策定し、計画に基づいた訓練と、その結果に基づく計画の見直しを継続することとした。

「企画室」は、平成31年度を期初とする第3期中期計画の策定に取り組んだ。前回同様、医療・福祉・大分センター毎に部会を設置し、現状の課題の洗い出し、今後の方向性等について協議・検討を行い、第2期計画からの継続課題も含めて計画

案を策定した。

事業所内保育所については開園当初は、定員2名に対し利用者2名でスタートしたが、その後順調に増加し、3月末の利用者数は8名となり、月平均5.2名の利用があった。また、保育所の運営を委託したニチイ学館大分支店と原則月1回の定例ミーティングを開催し、保育所の利用実績や園内の活動状況の報告、検討事項の協議を行うなどし、運営費等の申請手続きや立入調査の実施においても支障なく対応することができた。

サービス向上委員会において利用者満足度調査を実施した。満足度（5段階評価の大変良い・良いの割合）は別府・大分センターともに80%台を維持したものの、前回（平成28年度）調査時よりはいずれも減少した。前年度から継続して「笑顔でいいさつ」を重点目標に掲げて取り組んだが、これらの評価も前回から低下したことから引き続き接遇マナーの向上に努める。

人権・安全等の研修については、社会保障制度、特別研修として外部講師を招聘し、全職員を対象に「SNS利用にあたっての個人情報保護」に関する研修を開催し、ネット社会における人権への配慮や福祉・医療施設職員としての個人情報保護の留意点等について学んだ。

「地域療育連携室」は別府センターの計画相談を延べ572名に実施し、昨年度に比べ134名の増となった。大分センターの計画相談は、延べ401名で、昨年度に比べ6名の減となった。

重度行動障害へのよりよい支援を実施するため大分県による強度行動障害支援者研修へ参加することで、計画相談・障害児計画相談の加算請求も可能になった。別府市基幹相談支援センター業務を受託し、3,047件の相談に対応した。また、活動の一環として地域包括支援センター等と連携強化を図った。市内の主任児童委員に向けた障害・児童福祉サービスについての研修会の講師を務めた。

二次医療機関や相談支援事業所等へめじろ園の広報を行い、問い合わせの増加や入所につながった。

大分県重症児施設連絡会や大分県子育て連絡会へ出席し、県内の施設や行政機関との情報交換を密に行い利用者の確保に努めた。

外来担当で会議を開催し、待機者のスムーズな受け入れができるようシステムの再構築を検討した。外来利用者の出口支援として別府市の外来利用者については地域の相談支援事業所や関係機関との連携を取り必要なサービス等へのつなぎ等を行った。また、自立支援協議会に参加し地域の資源の把握に努めた。

「診療部」は、小児科医師を中心として、ひばり園の協力を得て発達障害児の家族支援を目的に保護者講座を開催した。上手なほめ方、上手な無視の仕方、上手な指

示の出し方の3セッションを開催し、延べ37名の受講があった。

県外で検査を受けていた難聴児と保護者の負担軽減のために、一部、県の補助事業を受けてASSR（聴覚誘導電位装置）を導入した。また、検査項目の充実と迅速な結果報告のために、生化学検査機器を更新した。

レントゲンシステムの保守管理の充実に取り組むとともに、データ管理導入以前のレントゲンフィルムの管理及び廃棄についての方針を取りまとめた。

ME機器の保守点検計画を策定し実施することができた。また、ME機器管理システムの導入でスムーズな中央管理が行えた。

利用者の栄養状態を継続的に管理するための栄養管理ソフトの導入について、業者等と打ち合わせを行い、次年度に向けた予算化に取り組んだ。

ペースト食には水分を加えることが必要であるが、味が薄くなる、必要な栄養が摂れなくなるなどの課題があったため、煮汁や出し汁を加えるなどの工夫を行った。また、加水量が多い場合は、プロテインの補充をするなどの対応に努めた。

また、ペースト食（お粥）の粘りについては、様々な製品が発売されているので、さらに検証を深めるとともに、継続的に調査を行うこととした。

臨床心理士は、医療・福祉制度で必要となる公認心理士の第一回国家試験を受験し全員が合格した。

また保護者支援について学びを深め、必要に応じて保護者面接を実施するなど対応を行った。

「リハビリテーション課」は、年間実施単位数は別府センターが72,590単位で4,702単位の増、大分センターが51,645単位で1,105単位の減であった。

短期集中リハビリを目的とする入所者の増加に対応するために、業務の効率化を図り、長期、短期入所者に対するリハビリを充実させたことで、年間を通じて多くのスタッフの稼働率が前年度よりも上昇した。

PT、OT、ST別に1年間の研修目標や方向性などを定め、1～2週間に1度の頻度で、計画的に勉強会を行うことができた。また、その中で出張報告、演題発表練習、外部講師を招いた研修会を開催した。

県の聴覚障害児療育体制強化事業の一環として、大分こども療育センターからST1名の研修を受け入れ、難聴児の評価、療育に必要な知識と技術の伝達を行った。

大分県小児在宅医療実技講習会にPTを2回、ST1回、特別支援教育研修講座にOTを派遣した他、センター内外の多くの研修会等にて講師を務めた。

円滑な利用者の受け入れのために、前年度後半から順次追加または開始するケースに担当をつけて準備した。一部、診察の開始が遅れた利用者もあったが稼働率は前年度より2%上昇した。同様に、キャンセル理由の調査・分析を行い、結果をもとに對

応を行った。キャンセル率は前年度より約1%低下した。

書類作成の簡素化を図るため、別府センター宛の情報提供書の変更を行った。また、医師への連絡箋とカンファレンス報告の書式を統合し1枚の用紙への入力式とし、業務負担の軽減に取り組んだ。

こじか園及びりんくの保護者向けに摂食や触覚認識・言語発達をテーマとして講習会を実施し、職員向けに摂食の支援方法や感覚統合、移乗介助等をテーマとして勉強会を行った。

「別府整肢園」は、1日平均47.6名の利用があり、前年度比で6.4名と大きな利用増があったが、職員が協力して対応し、大きな事故もなく1年を終えることができた。

身体拘束の廃止に向けた取組みの一環として、個別支援計画書に身体拘束の項目を明記し共有した。年2回のケース会議やカンファレンスの中で、身体拘束を減らすための具体的な方策について検討を行い、職員間で共有した。また、身体拘束の記録方法についての検討を行った。記録方法を見直すことで、身体拘束についての気づきや改善の糸口に繋げるとともに、身体拘束に関する職員の意識の向上を図った。

有期目的の入所や短期入所の提供の手順を見直し、入所利用の円滑、効率化を図るために、こじか園やりんく等と連携し、共通利用者の情報提供を行った。情報の迅速な提供を意識することで、それぞれの施設間の利用変更等を円滑に行うことができた。

入所利用者の増加と夏季等の長期休暇への集中に対応するために、特に利用の集中が予想される次年度の夏季休暇期間について、入所希望者の事前調査を行い受け入れ態勢を整えた。

地域療育連携室や外来と連携し、スムーズな入退園、在宅への移行を支援するとともに、ショートステイを延298名受け入れ、地域の利用者の生活支援の充実に取り組んだ。

「めじろ園」は、新たな利用者4名をお迎えし、1日平均57.5名の利用があった。ショートステイも延381名を受け入れた。

ご家族又は成年後見人の方々全員と個別面談を実施し、日頃の生活や医療ケアの様子をお伝えするとともに、要望やご意見などを伺い、その情報を施設内で共有して、ご家族の思いを反映したサービスが提供できるよう取り組んだ。

利用者の特徴や行動特性の学習会等を実施したことで、利用者とのコミュニケーションが深まり、支援の場面での職員間の声掛けも増えた。

急な勤務の変更や残業への対応についても職員の理解と協力のもと、適時・適切

に対応できた。このような相互協力のもとで業務が実施できたことから年度途中の退職者は出なかつた。

各種行事へのボランティアの受け入れに取り組み、運動会、夏・秋まつり、毎月の誕生会等に延292名のボランティアの参加があった。利用者全員が参加でき楽しめ、日中活動の充実に繋がつた。また、アロマセラピーのボランティアが新たに加わり、利用者に、香りやマッサージによる癒しのひとときを提供することができた。

ワークライフバランスの実現の一環として、有給休暇の取りやすい職場づくりを目標に取り組み前年度に比べ取得率を向上することができた。育児休業に加え、深夜業の制限や時間外勤務の制限を申請する職員が増え、家庭における育児、家事などの負担を軽減し働きやすい環境になった。

「ひばり園」は、1日平均利用者14.2名で、昨年に比べ2.2名減少した。延利用者3,784名で昨年度に比べ395名の利用減がみられた。

ペアレント・トレーニングリーダー養成研修に1名参加し、2名の職員が、年長者2グループ10名の保護者へ10セッションのペアレント・トレーニングを行つた。グループでトレーニングが難しい保護者に対しては個別の対応を行つた。その結果、保護者の方から「自分が変われた」「ほめることで子どもの成長を感じた」等の感想をいただいた。また、個別相談においても移行支援の相談や日々の悩みをすぐに解消することができ、昨年より1.5倍の件数となつた。

ひばりグループ(年少・年中・年長)、ばんびグループ、それぞれに課題保育の月案を作成し、目標に対してどのように療育を実施するかについて具体的に話し合い、質的向上及び内容の統一を図つた。また、月案作成により、保育の準備及び内容検討の時間が短縮した。

保育所等訪問の延べ件数は、昨年度に比べ、60件と18件も増えた。保育所等訪問のニーズは高く、保育所等に保育コーディネーターの配置もあり、訪問先の理解も進んでいる。また、地域支援担当職員の育成として、3名(こじか園職員含む)の育成を行い、保育所等訪問や巡回相談等の業務を単独遂行できるようになった。

「地域支援センターほっと」は、年間を通して複数事業で利用者を増やして、サービスの安定的な提供を行うことができた。生活介護は延4,535名の利用で延236名の減であった。放課後等デイサービスは1,956名で108名の増であった。

主催した特別講演の講師奥平綾子氏からの助言、提案を取り入れ、「自己選択・自己決定・自己責任」に繋がる具体的ツールを用いて支援を行つた。また、クールダウンや個人スペースの環境も工夫しながら取り組んだ。

すべての行動援護利用者に対し支援計画シート、手順書兼記録用紙の作成を行った。手順書兼記録用紙を作成・更新していく過程で問題点の共有を行い、新たに更新した手順書を基に適切な支援を行うことで、児童館や外出先でのパニックの軽減につながる等の成果が得られ、活動の場所の拡大に繋がった。

生活介護利用者が、急変した時にスムーズな対応ができるように、救急カードの物品の説明及び使用方法、緊急時の連絡方法、職員の動きなどの具体的な勉強会を行った。

「**大分療育クリニック**」は、延18, 747名の利用があった。

関係者で話し合い、経営改善の考え方と共に通認識を持つことに努めた。その結果、数値化できるところは数値化して問題の整理を続け今後の議論の資料とする予定である。

仕事を効率よく処理することで残業を縮減するよう、機会あるごとに職員に促し実際に残業は縮減していった。また職員一人あたりの負荷を各部門で調整することにより、職員の疲労や不注意に基づいた重大事故が発生することはなかった。

常勤医師（児童精神科）の増員に伴う患者層の質、量の変化に対して総務（医療事務）、外来看護師、心理職など関係する職員は円滑な診察が運用されるため様々な取り組みを医師と協同して行った結果、大きな苦情やトラブルなく順調に他院からの紹介患者は無事に通院が開始され、安定した外来診療の流れが確立された。

事務部門では大分療育センター全体の大規模修繕を取りまとめて行った。外壁塗装等の修繕だけでなく、安全推進専門部会のラウンド等で発見した修繕箇所についても早期に修繕することができ、安全安心な施設の提供に努めることができた。また、大会議室をパーティションで区切ることにより会議室の用途の幅を広げ、効率的な施設の運用を行えるようになった。

既存の予約システムの本格導入を行ったことで、予約システムのデータを各部署の様式に引用ができるようになり、作業効率の改善が図れた。

また、働き方改革の一環で職場の一斉消灯を導入したり、職員の健康増進のために朝のラジオ体操を行ったりと、健康経営に努めた。

「**障がい者歯科**」は、別府センターに750名の利用があり、昨年度に比べ85名の増、大分センターは2, 795名の利用があり35名の増であった。

長期間欠員だった常勤歯科衛生士1名を6月に採用した。現在、さらに1名、正規職員として募集を行っている。

採用した常勤歯科衛生士の業務の習熟にともない、診療報酬は上昇傾向にある。さらにパート歯科衛生士の勤務日を増やし、業務を見直すことで、診療日数の増加に努めた。

適切な医療機関で診療が受けられるよう他の歯科医療機関との関係強化に努めた。当センターで診療が困難な患者は、その障害および疾病的程度を把握した上で、速やかに県口腔保健センターやより高次医療機関である大分大学医学部に紹介した。逆に、近医で診察可能と思われる定期検診のみで管理できる患者については、積極的に1次医療機関での受診を勧め、治療枠の確保に努めた。それにより、治療期間が短縮してきている。

「**こじか園**」は1日平均14.8名の利用で、昨年度に比べ0.9名の増であった。

保護者講座を前年度同様に実施するとともに、年長児の保護者（1グループ）とS S P グループの保護者（2グループ）を対象にペアレント・トレーニングを実施した。講座を受けたことで、子どもとの関わりに活かしていくことができると大変好評だった。

巡回やカンガルー広場等での保育提供ができる保育士の育成をしたことで、地域支援に携わる職員が増えた。また、県からの委託事業のペアレントプログラムを外来利用者対象に実施することができた。

職員間の情報の共有と室内の安全確認などをすすめ、大きな事故なく保育を提供することができた。保育中に全体を見守る体制をつくり、安全な環境の中で発達を促す保育をすることで、わずかだが利用者の増加につながった。

「**りんく**」は、生活介護事業の利用者及び利用日の増加に取り組むことで、1日平均9.7名の利用があり、昨年度に比べ0.1名の増となった。また、将来の利用者確保に向けて新生支援学校から2名、大分支援学校から1名の実習生を受け入れた。

年2回の個別支援会議、年1回のサービス担当者会議に加え、年2回の個別面談を実施し、利用者や家族の要望、利用者の状況などを把握し、個別支援計画書を作成することで、個々に応じたサービスの提供ができた。また、自宅訪問を行い、自力で食事ができるようになる等の問題解決ができた。

個性、障害特性に配慮した活動に力を入れ、活動の様子を写真に撮り、連絡帳に貼ったり、DVDを製作し保護者へ伝える取り組みを行った。

年間90名のボランティアの受け入れを行い、利用者とコミュニケーションをとつてもらい利用者のサービス向上へつながった。

嘱託医による保護者面談を行い緊急時対応などの確認を行った。また、送迎用の医療情報を見直した。

V 職員研修の状況

1 一般研修

(1) 新任職員研修

対象者：平成30年度新採用及び採用後未受講職員

①前期 日程及び内容：4月4日 接遇研修

講師：有限会社ファニーフェイス 代表取締役 山村 美穂子 氏
4月4日～6日（3日間） 講義形式の研修、グループ討議等
受講者数 16人／18人中

②中期 日程及び内容：7月1日から9月30日 各施設の現場体験実習

受講者数 17人／18人中

③後期 日程及び内容：3月15日 グループ討議及び発表

受講者数 15人／15人中

(2) 中堅職員研修

対象者：勤続年数5～10年未満の職員

受講者数 13人／13人中

日程及び内容：11月20日 施設見学研修

見学施設：療育医療センター 若楠療育園

(3) 監督者研修

対象者：管理職及び係長級以上の役職職員

受講者数 48人／54人中

日程及び内容：11月16日・11月22日 講義

講 義：「部下のやる気を引き出すコーチングスキル」

講 師：Healing forest～癒しの森～ 代表 明石次郎 氏

2 特別研修

(1) 講 義：『「未来」のあなたへ～今、貴方からのプレゼント～』

対象者：全職員 参加者数 53人

日 程：別府発達医療センター 8月31日

大分療育センター 9月 6日

講 師：大分銀行 鶴見支店 支店長代理 田村達也 氏

(2) 講 義：「接遇について」

対象者：全職員 参加者数 117人

日 程：別府発達医療センター 10月31日

大分療育センター 10月24日

講 師：有限会社ファニーフェイス 代表 山村美穂子 氏

(3) 講 義：「各部署で取り組んだ研究活動等の発表」

対象者：全職員 参加者数 130人

日 程：別府発達医療センター 12月7日

発表者：整肢園	看護師	安東理恵
リハ課	理学療法士	武智あかね
整肢園	看護師	桂木謙治
ひばり園	保育士	川端博江
めじろ園	看護師	薬師寺玲子
日 程：大分療育センター		1月9日
発表者：こじか園	保育士	徳丸亨介
リハ課	理学療法士	那須賢一
リハ課	作業療法士	弥頭良幸
りんく	介護福祉士	加藤一晃

(4) 講 義：「SNS利用にあたっての個人情報保護について」

対象者：全職員 参加者数 95名

日 程：別府発達医療センター 3月5日

（※大分療育センターは平成31年度開催予定）

講 師：ハイパーネットワーク社会研究所 副所長 渡辺律子 氏

VII 指導事業の状況

(1) 修繕工事

① 事 業 名 平成30年度私立学校（社会福祉施設）ブロック塀等緊急安全対策事業

② 工 事 名 施設内保育所ブロック塀撤去改修工事

③ 事 業 費 総事業費 1,350,000円（消費税込）
(内訳) 補助対象 165,838円

補助金額 55,000円（補助対象経費の1/3）
自己負担額 1,295,000円

④ 完了年月日 平成31年2月28日



- (2) 機器整備
- ① 事業名 平成30年度おおいた産医療関連機器導入推進補助事業
- ② 導入機器名 歩行器の電動化装置 B-GO 1台
- ③ 受領施設 大分療育センター
- ④ 事業費 総事業費 378,000円
(内訳) 補助対象経費 350,000円
補助金額 175,000円(補助対象経費の1/2)
自己負担額 203,000円
- ⑤ 完了年月日 平成31年3月31日



- (3) 機器整備
- ① 事業名 平成30年度聴覚障がい児療育体制強化事業
- ② 導入機器名 新生児聴力検査機器 Eclipse
- ③ 受領施設 別府発達医療センター
- ④ 事業費 総事業費 5,972,400円
(内訳) 補助対象経費 5,972,400円
補助金額 2,986,000円
(補助対象経費の1/2)
自己負担額 2,986,400円
- ⑤ 完了年月日 平成31年3月31日

IV 個別事業の実績

【別府センター】

1 診療部門

(1) 標榜科

	年度	26	27	28	29	30	対前年比
整形外科	診療日数(日)	272	271	269	269	270	1
	新患(人)	697	600	445	372	303	△69
	再来(人)	3,689	3,790	3,792	3,572	2,504	△1,068
	合計(人)	4,386	4,390	4,237	3,944	2,807	△1,137
	1日平均(人)	16.1	16.2	15.8	14.7	10.4	△4.3
側再わ 掲ん ー診	診療日数(日)	29	28	24	24	24	
	新患(人)	189	204	44	39	36	△3
	再来(人)	237	218	230	190	135	△55
	合計(人)	426	422	274	229	171	△58
	1日平均(人)	14.7	15.1	11.4	9.5	7.1	△2.4
リハ科	新患(人)	4	0	1	11	91	80
	再来(人)	8,977	8,714	8,492	8,072	9,234	1,162
	合計(人)	8,981	8,714	8,493	8,083	9,325	1,242
	1日平均(人)	33.0	32.2	31.6	30.0	34.5	4.5
	新患(人)	114	140	124	143	131	△12.0
小児科	再来(人)	1,333	1,586	1,899	1,967	2,054	87.0
	合計(人)	1,447	1,726	2,023	2,110	2,185	75.0
	1日平均(人)	5.3	6.4	7.5	7.8	8.1	0.3
	新患(人)	19	30	13	27	19	△8
	再来(人)	67	45	38	35	35	0
麻酔科	合計(人)	86	75	51	62	54	△8
	1日平均(人)	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.0
	診療日数(日)	46	50	47	47	45	△2
	新患(人)	36	43	34	28	23	△5
	再来(人)	246	308	319	274	252	△22
耳鼻咽喉科	合計(人)	282	351	353	302	275	△27
	1日平均(人)	6.1	7.0	7.5	6.4	6.1	△0.3
	診療日数(日)	94	90	69	82	82	0
	新患(人)	109	50	71	154	151	△3
	再来(人)	1,205	1,013	618	511	599	88
歯科	合計(人)	1,314	1,063	689	665	750	85
	1日平均(人)	14.0	11.8	10.0	8.1	9.1	1.0
	鎮静法下治療延数	28	12	14	14	30	16

(2)手術等の件数

(単位:例)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
骨長調整術	12	6	2	3	0	△ 3
骨切り術	2	5	2	0	0	0
骨盤骨切り術	2	2	0	1	1	0
骨内異物除去術	12	21	15	6	3	△ 3
腱延長術	4	5	5	2	2	0
腱移行術	0	0	1	2	0	△ 2
内反足術	1	2	5	5	3	△ 2
股関節内転筋切離術	0	2	1	0	0	0
股関節筋群解離術	0	2	4	1	4	3
関節脱臼非観血的整復術	2	3	1	1	0	△ 1
観血的関節授動術	11	8	0	0	0	0
その他	35	16	21	13	6	△ 7
合計	81	72	57	34	19	△ 15
ボツリヌス毒素使用	250	240	200	174	164	△ 10
全身麻酔下の歯科処置	28	33	27	26	30	4

(3)リハビリテーション

年度	26	27	28	29	30	対前年度
延べ人数 (人)	34,675	32,463	33,732	33,271	35,589	2,318
理学療法 (単位)	30,523	25,874	26,728	25,900	27,806	1,906
作業療法 (単位)	25,295	24,127	25,963	22,639	24,903	2,264
言語聴覚療法 (単位)	16,236	16,370	16,187	19,349	19,881	532

(4)調剤数

(単位:件)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
入院	13,546	10,865	12,481	13,074	13,908	834
外来	226	687	247	143	114	△ 29
合計	13,772	11,552	12,728	13,217	14,022	805

(5)検査件数(院内実施分)

(単位:件)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
脳波検査	142	123	119	60	50	△ 10
心電図	155	157	130	136	142	6
ABR他	14	29	24	25	16	△ 9
血液検査	638	823	603	463	452	△ 11
尿検査他	409	406	325	309	295	△ 14
生化学	211	189	92	35	41	6
血液ガス	74	135	62	65	40	△ 25
合計	1,643	1,862	1,355	1,093	1,036	△ 57

(6)X線撮影

(単位:件)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
単純撮影	2,192	2,109	1,945	1,705	1,754	49

2 入園部門

(1)別府整肢園 (定員60人)

①入所者数

単位:人

年度	26	27	28	29	30	対前年度
前年度から継続	41	48	37	38	42	4
入園	169	186	167	140	138	△ 2
退園	162	197	166	138	138	0
延在籍人員	14,989	14,686	15,303	15,047	17,364	2,317
一日平均在籍	41.1	40.2	41.9	41.2	47.6	6.4

②就学状況

単位:人

年度	26	27	28	29	30	対前年度
小学部	19	11	14	21	28	7
中学部	8	9	9	8	6	△ 2
高等部	6	6	4	11	9	△ 2
合計	33	26	27	40	43	3

③短期入所等(空床利用)

単位:人

年度	26	27	28	29	30	対前年度
延べ件数 (件)	94	124	119	180	136	△ 44
延べ日数 (日)	321	350	346	472	298	△ 174
日中一時支援 (日)	34	5	6	30	0	△ 30

(2)めじろ園 (定員60人)

①入所者数

単位:人

年度	26	27	28	29	30	対前年度
前年度から継続	59	57	58	57	56	△ 1
入園	0	1	1	2	4	2
退園	2	0	2	3	2	△ 1
延在籍人員	20,932	20,941	20,999	20,936	20,983	47
一日平均在籍	57.3	57.2	57.5	57.3	57.5	0.2

②就学状況

単位:人

年度	26	27	28	29	30	対前年度
小学部	2	2	2	1	3	2
中学部	0	0	0	0	0	0
高等部	4	2	0	2	3	1
合計	6	4	2	3	6	3

③短期入所等(空床利用)

単位:人

年度	26	27	28	29	30	対前年度
延べ件数	135	81	93	108	90	△ 18
延べ日数 (日)	614	354	464	534	381	△ 153
日中一時支援 (日)	32	34	16	1	8	7

3 通園部門

ひばり園 (定員30人)

(単位:人)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
継続児数	35	34	28	38	33	△ 5
入園児数	19	16	29	18	19	1
退園児数	21	22	19	23	19	△ 4
年間利用者数	54	49	57	56	52	△ 4
延利用者数	4,681	4,463	3,965	4,179	3,784	△ 395
一日平均	18.3	17.3	15.6	16.4	14.2	△ 2.2

4 地域支援センターほっと

年度	26	27	28	29	30	対前年度	単位
生活介護	登録者数	47	47	48	48	0	人
	延利用者数	4,730	4,688	4,550	4,771	4,535	△ 236 人
	一日平均	19.4	19.4	18.6	19.4	18.4	△ 1 人
放課後等デイサービス	登録者数	20	21	23	20	0	人
	延利用者数	1,763	1,984	1,898	1,848	1,956	108 人
	一日平均	6.1	6.8	7.1	7.2	8.1	0.9 人
保育所等訪問支援事業	登録者数				7.0	7	人
	延利用者数				14.0	14	人
居宅介護	登録者数	18	17	17	26	24	△ 2 人
	延利用時間数	1,474	1,662	1,496	1,957	1,507	△ 451 時間
重度訪問介護	登録者数				12	12	人
	延利用時間数				675	675	時間
行動援護	登録者数	22	14	18	16	19	3 人
	延利用時間数	4,538	4,242	3,735	2,977	3,000	23 時間
日中一時支援(ショートステイ)	登録者数	9	8	9	9	8	△ 1 人
	延利用者数	276	278	272	266	262	△ 4 人
個別移動支援	登録者数	17	14	16	20	22	2 人
	延利用時間数	1,249.5	1,103.0	1,149.0	1,208.0	1,165.0	△ 43 時間
ほっとサービス	登録者数	5	5	5	5	4	△ 1 人
	延利用者数	1,241	367	205	251	235	△ 16 人

5 地域療育関連主要事業

(単位:件)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
訪問療育等	巡回相談	268	223	240	215	241
	訪問援助	105	100	108	122	27
	計	373	323	348	337	268
外来療育等	保育	1,273	1,300	1,487	1,517	1,301
	SW等	273	151	170	54	12
	その他	43	46	20	182	175
大分県分	計	1,589	1,495	1,677	1,753	1,489
	施設支援一般指導	100	79	86	74	97
	施設支援専門指導	2	2	2	2	0
別府市委託相談事業		2,341	1,861	2,601	2,662	3,047
計画相談	障害児計画相談支援 ①サービス利用支援 ②継続利用支援	143	130	155	205	296
		98	102	123	119	120
		45	28	32	86	176
相談	障害者計画相談 ①サービス利用支援 ②継続利用支援	244	237	255	233	276
		163	134	143	161	122
		81	103	123	72	154
						385

【大分センター】

6 外来診療部門

リハ科	年度	26	27	28	29	30	対前年比
	診療日数(日)	249	249	247	247	249	2.0
精神科	新患(人)	105	125	124	62	52	△ 10.0
	再来(人)	15,329	15,350	15,173	14,605	14,848	243.0
小児科	合計(人)	15,434	15,475	15,297	14,667	14,900	233.0
	1日平均(人)	62.0	62.1	62.9	59.4	59.8	0.5
歯科	年度	26	27	28	29	30	対前年比
	診療日数(日)	236	249	247	247	249	2.0
(内リ 訳ハ)	新患(人)	149	187	174	227	298	71.0
	再来(人)	2,026	1,969	2,195	2,486	3,549	1,063.0
	合計(人)	2,175	2,156	2,369	2,713	3,847	1,134.0
	1日平均(人)	9.2	8.7	10.6	11.0	15.4	4.5
	年度	26	27	28	29	30	対前年比
	診療日数(日)	55	11	5	0	0	0
	新患(人)	28	1	0	0	0	0
	再来(人)	84	37	19	0	0	0
	合計(人)	112	38	19	0	0	0
	1日平均(人)	2.0	3.5	3.8	0.0	0.0	0.0
	年度	26	27	28	29	30	対前年比
	診療日数(日)	191	189	182	186	190	4
	新患(人)	430	214	194	664	756	92
	再来(人)	2,929	3,296	2,696	1,910	1,849	△ 61
	合計(人)	3,359	3,510	2,890	2,760	2,795	35
	1日平均(人)	17.6	18.6	15.9	14.8	14.7	△ 0.1
	鎮静法下治療延数	265	334	265	223	221	△ 2
	年度	26	27	28	29	30	対前年比
	理学療法(単位)	16,563	17,165	17,204	15,724	16,091	367
	作業療法(単位)	23,486	23,839	23,072	21,674	19,943	△ 1,731
	言語聴覚療法(単位)	15,043	14,845	15,714	15,352	15,611	259

*小児科については平成29年3月31日付け標榜廃止

7 通園部門

(1)こじか園 (定員20人)

(単位:人)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
継続児数	18	34	38	39	26	△ 13
入園児数	21	26	19	16	29	13
退園児数	23	22	18	28	26	△ 2
登録者数	50	60	54	49	55	6
延利用者数	2,791	3,421	3,569	3,386	3,648	262
一日平均	11.2	13.9	14.7	13.9	14.8	0.9

*平成24年度からは福祉型児童発達支援センターへ移行

(2)りんく (定員20人)

(単位:人)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
生活介護	登録者数	18	19	20	20	0
	延利用者数	1,990	2,052	2,263	2,359	2,405
	一日平均	8.0	8.2	9.2	9.6	0.1
放課後デイサービス	登録者数	6	9	11	11	0
	延利用者数	165	151	115	15	0
	一日平均	2.4	2.1	1.6	1	0

平成29年6月30日付で放課後デイサービスは休止

8 地域療育関連主要事業

(単位:件)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
大分市分	巡回相談	115	112	104	137	146
	訪問療育等	772	618	575	503	553
	計	887	730	679	640	699
外來療育等	保育	1,421	1,417	1,431	1,328	1,070
	SW等	66	12	64	19	1
	その他	575	301	176	268	59
	計	2,062	1,730	1,671	1,615	1,130
佐伯市メディカルサポート	施設支援一般指導	28	38	28	35	28
						△ 7
発達障害児巡回専門員派遣事業		0	3	3	2	8
						6
計画相談	障害児計画相談支援	291	407	433	403	388
	①サービス利用支援	166	207	206	197	181
	②継続利用支援	125	200	227	206	207
障害者計画相談		1	6	8	4	13
	①サービス利用支援	1	3	5	2	9
	②継続利用支援	0	3	3	2	4
						7
						2

9 ソーシャルスキルトレーニング

(単位:人)

年度	26	27	28	29	30	対前年度
延利用者数	269	132	23	0	0	0